

## 大好評のハルピン公演

神田さち子さんのひとり芝居『帰ってきたおばあさん』

石 金楷

2008年10月26日、日本の「神田さち子中国の旅」一行15人がハルピンを訪れ、残留孤児の養父母および今も中国に残る残留孤児のために慰問公演を行い、また黒竜江省竜江劇場でも一般公演を行い、広く各界から好評を博した。

一行は16日午後ハルピンに到着。ハルピン市日本残留孤児養父母連絡会秘書長、残留孤児代表、連絡会ボランティアが空港に出迎え、歓迎横断幕の前で記念撮影を行なった。翌27日午前9時、一行は養父母連絡会を訪問、双方プレゼントを交換、連絡会は神田さち子さんに感謝状を贈呈、日本の友人からはカンパが渡された。慰問公演は正午、万達ホリデー・ホテルの会議室で行なわれた。演しものはひとり芝居『帰ってきたおばあさん』。

### \* 感動した書家「海上昇明月…」と揮毫

ひとり芝居で65歳の神田さち子さんは豊かな表情と入神の演技で、一人の残留婦人とその娘が中国でなめた艱難辛苦の人生を演じた。観客は主人公の苦痛を思っ苦痛を感じ、主人公の嘆息を受けて嘆息し、たまらずに泣いた。同行の日本人記者と取材に来た中国の記者は感動の場面をカメラに収めた。芝居を見た養父母の実子竜雅君さんは黒竜江省の有名な書家だが、その場で『海上昇明月 天涯共此時』と書き満場の喝采を浴びた。

養父母たちが孤児を育てた経過を聞いた神田さち子さんは、養父母と孤児たちに酒を注ぎ、ともに人類の永遠を祈った。宴会の最後は全員手をつなぎ『北国の春』を歌って終わった。翌日の『生活報』、『晨报』は早速、この一件を報じた。

一般市民向けの公演はこの日の夜6時半から行われ、大きな成功を収めた。養父母連絡会の顧問であり、黒竜江省社会科学院東北アジア研究所所長代理笄志剛先生は芝居を見終わったあと「日本のひとり芝居『帰ってきたおばあさん』を見て」と題して次のように紹介した。

「10月27日、筆者夫妻は日本の著名なひとり芝居芸術家神田さち子さん演ずる『帰ってきたおばあさん』を見た。芝居はハルピン市南岗区阿什河街118号にある黒竜江省竜江劇場で行なわれた。黒竜江省内の文化界、芸能界の面々、工業大学、黒竜江大学日本語科の学生と先生たちが鑑賞した。省文化庁副庁長、竜江劇場の院長、著名な竜江劇の舞台芸術家・白淑賢などもかけつけた。『帰ってきたおばあさん』は舞踏、演技、セリフで構成され、タイトルは戦争中および戦後、中国人に助けられて生き抜いた主人公鈴木春代と娘初子の波乱に満ちた人生体験を表現していて、日本の軍国主義が行なった侵略戦争に対す

る批判と告発に満ちている。そして中国人民と養父母が恨みを徳に換えた心の広さを謳歌したものだ。「私の命は中国の土地にある。それこそ私の中日友好そのものです」これがこの劇のテーマであり、日本に帰った日本の老人が、もう一度中国に帰ってくるという主人公の胸の内を見事に舞台の上で表現した。

筆者はこのようなひとり芝居を初めて観た。そしてこんなに強烈に魂をゆすぶられたのは初めてである。神田さち子さんはごく簡単な舞台装置で転換の多い役柄を豊かな表情で演じた。開拓団員として中国に来た鈴木勝造夫婦がソ満国境地帯に住み、4人の子を産み幸せに暮らしていた。が、敗戦の混乱の中で必死の逃避行を余儀なくされる。空からは飛行機に、地上では追撃に逃げ惑う中、春代は土地の悪者に強姦される。勝造は屈辱に耐えられず春代を捨て、単身帰国する。春代は生きるため中国人に救いを求め、やがて王才人と結婚。春代は看護婦の経験を生かして村で助産の仕事に明け暮れる。文革中は「日本鬼子」と罵られ、苦しい毎日を生きた後、中日国交回復の日が来てようやく日本に帰国した。が、故郷・鹿児島櫻島での歓迎会で勝造の手紙を見る。そして彼女はプライドを持った一人の中国人として、もう一度、中国に帰る。この場面で会場はシーンとして声もなく、多くの観客が涙を流した。

神田さち子さんは背が高くはない。が、ひとりの母親の大きさを演じた。彼女は若くはない。が、彼女は日本女性の優しさと美しさを演じた。彼女はがっしりした体ではない。が、その痩せた体で侵略戦争に対する批判と中日友好に対する切実な期待を演じた。

### \* ボード『子宮』で沸かす

筆者はとりわけ神田さち子さんがこのひとり芝居を通して、あの戦争に対する認識に感服した。普通の被害者意識と同時に日本の加害者意識、戦争に対する深刻な反省と謝罪をも演じた。芝居は日本語がわからない観衆をも動かした。彼女は主人公が村人に中国語を習うくんだりで大きなボール紙に書いた「肝臓」「心臓病」「腎臓」を観客に読ませた。とりわけ最前列に坐っていた白庁長に「子宮」の発音を読ませたときには、そのユーモアに会場を覆っていた重苦しい雰囲気が一瞬になごんだ。

聞くところによると神田さんは日本でもう166回の公演をやっているそうだが、海外ではハルピンが初めてだという。芝居が終わると黒竜江省文化庁が彼女に大きな花束を贈り、白庁長は舞台上で彼女と抱き合った。

10月28日、神田さん一行は方正県中日友好園林を訪ねて参拝。翌29日は長春市の日中友好楼を訪ねて養父母を慰問。30日、ハルピンへ戻り養父母連絡会秘書長の案内で東北アジャ研究所を訪問して歓談。31日、帰国の途に着いた。 (奥村正雄訳)

<せききんかい、ハルピン市日本残留孤児養父母連絡会秘書長。彼の兄は留孤児である。母親が養母として兄を育てた。>

神田さち子さんのハルピン公演



熱演する神田さち子さん



さち子さんの両側は、かつて残留孤児だった二人。だが、未だ日本政府から認められず、今も帰国できないでいる。



さち子さんを囲む中国の養父母たち



さち子さんは養父母連絡会の石さんから感謝状を贈られた。さち子さんの左隣は、元NHKアナウンサーの酒井宏さん。 <写真提供：神田さち子さん>